



# 北極星



学校だより 5月号  
令和7年4月30日

相模原市立大野北小学校

学校ホームページ(新) <https://ohnokita-e.sagamihara.andteacher.jp>



## あいさつの大切さ

校長 彦坂 克則

年々、季節が早く移行していくを感じているのは、私だけでしょうか？校庭のケヤキは今頃、新緑が映える美しい時期ですが、木々の緑の濃さが初夏を感じさせています。



新学期がスタートとして、早いもので1ヶ月近くが経とうとしています。どの学年の子どもたちも新しい環境に慣れはじめ、自分なりの生活の仕方を見いだしているところです。

さて、着任・始業式の時に、「同じクラスになった友だちをよく知しましょう。そのための第一歩。あいさつをしましょう。」入学式では、「友だちと仲良くしましょう。そのための魔法の言葉を3つ教えます。」と話をしています。それぞれのクラスの様子を見ていると、落ち着いた様子で授業に取り組んでいたりと、休み時間に担任とクラスの子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿が見られたりと順調なスタートが切れております。

毎日、南門に立ってあいさつをしていると、元気なあいさつをしてくれる子どもたちが多く本当に嬉しく思っています。特に、登校班の班長さんが元気よくあいさつしているとその班の子どもたちも私の顔を見てあいさつしてくれます。この輪が広がることを願っています。

なぜ私があいさつにこだわるのかというと、あいさつは「人と人をつなぐツール」だと思っているからです。これは、まだ私が愛知県の中学校で教員をしていたとき、今のようにほぼ全員の生徒が高校に進学することはなく、必ず何人か就職をする生徒がいました。就職する生徒のために就職口を開拓したり、就職した生徒の職場を訪れ、様子を聞きに行ったりしていました。ある職場の社長さんと話しているとき、「〇〇君は、まだ仕事の段取りを覚えていないが、感心していることが一つあるよ。それは出勤すると毎日必ず気持ちのよいあいさつを職場の人全員にしている。そのことで職場の人たちが〇〇君に仕事のことをあたたかく見守りながら優しく教えていて、職場の雰囲気はよくなっているよ。」と話してくれました。卒業生をこのような気持ちで見てもらっていることに感謝を伝えながら、改めて、あいさつの大切さを実感したことを覚えています。

あいさつは、社会生活をしていく中で必要なことです。朝「おはよう」帰りの「さようなら」何かしてもらったときの「ありがとう」何かしてしまったときの「ごめんなさい」。この一言が人間関係を作っていく上でとても大切ではないでしょうか。この言葉あるなしでは、相手の印象は大きく変わると思います。

4月の講話では、「認め合い、響き合う」クラスや学年を作りましょうと伝えました。5月の講話では、あいさつのことに触れながら、相手を意識して生活できる人になってほしいこと（人間人：人は人と人の間に生きている。1人では生きていけない）をお話ししようと思っています。ご家庭でも話題にいただければ幸いです。



今月もよろしくお願いいたします。